

SPCフローリング サイレントクイックフロア

Silent Quick Floor

施工説明書

INDEX

ご使用前に	P.01
下地について	P.01
施工前の確認事項	P.04
施工方法	P.05
施工手順	P.06
お手入れ、メンテナンス	P.09



ご使用前に

サイレントクイックは、カルシウム（CaCO₃）とPVCを主成分とした複合素材のフローリングです。サネ部分に特殊なロック機構があり、接着剤や釘を使用しない「置敷き工法」で施工できます。



注意

施工方法は現場の状況により様々です。

ここでは一例を示した施工資料になります。

施工方法や納まりの詳細については、工務店、工事店さまの現場での判断、責任の下決定していただきますようお願い申し上げます。

下地について

■下地の条件

- 下地が清潔で平滑（3mで5mm以内）かつ乾燥していることを確認してください。
- 基板はどの方向でも2mあたり25mm以上傾斜していないこと。
- 窪み、深い溝、伸縮目地、その他の欠陥は、補修・レベリングコンパウンドで埋めてください。
- 下地には過度の湿気やアルカリが付着していないことを確認し、汚れ、塗料、ニス、ワックス、油、溶剤、その他あらゆる異物や汚染物質を除去してください。石油、溶剤、柑橘系オイルを含む製品を下地に使用しないでください。
- この床材は防水性がありますが、防湿層としては使用できません。コンクリート下地の場合は、後述の通り防湿層が必要です。

項目	基準	重要な理由
下地の平滑度	3mで5mm以内	平滑でない下地は隙間が発生しロックシステムが破損します
下地の含水率	CM2.5% (カーバイド法) ASTM F2170 RH80% ASTM F1869 3.63kg/92m ²	湿気はアルカリ塩、接合部の損傷、カビ発生の原因になります。コンクリート下地には0.15mmのポリシート必須
下地のたわみ	構造的に強固で上下動がない事	たわみはロックシステムを痛め、隙間の発生につながります
適切な膨張スペースの確保	置き敷き施工なので壁際に5mmのスペースが必要	不適切な隙間は突き上げや破損を引き起こします。
材料の検品	施工前に損傷を確認	施工後の表面損傷のクレームは受けられません。
使用可能な下地	柔らかい下地は不可	クッションビニル、カーペット、フローティング床は不可。ロックシステムを痛めます。

下地について

■下記の下地・場所には施工できません

- あらゆる種類のカーペット、既存のクッション付きビニール床材、フローリング、ルーズレイ、および周囲に固定されたシートビニールの上。
- コンクリート上に直接敷かれた無垢材フローリング／木製下地の上。
- コンクリート上に敷かれた寸法木材または合板の上に敷かれた無垢材フローリング／木製下地。
- 浸水しやすい部屋（サウナ、屋外、季節限定のポーチ、キャンピングトレーラー、ボート、RV、ベランダなど）。
- 温度調節のない部屋や家屋。
- 柔らかい下地材や下敷き（製品本来の強度が低下する可能性がある）。
既存のシート状ビニール床にはクッション材が入っていてはならず、厚さは1層を超えないこと。

■コンクリート下地に関する注意点

- アルカリ性: コンクリート下地から発生する水分はアルカリ性です。PH9を超えるとフローリングを痛めます。
- 防湿層: コンクリート下地と床材の間には、最低0.15mmのポリフィルム（防湿層）が必要です。
- 養生・状態: コンクリート下地は、完全に養生され、打設後少なくとも60日経過し、平滑で、恒久的に乾燥しており、清潔で、埃、ワックス、溶剤、塗料、グリース、油、古い接着剤の残留物などの異物がない状態である必要があります。
- 水分含有量: 水分含有量は最大2.5% (CM法 / ASTM F2659) であること。

■木下地に関する注意点

- 補修: 緩んだ板やきしみ音がある場合は、設置前に補修してください。
- 水分含有量: 木製下地材の水分含有量は12%以下である必要があります。
- 環境: 地下室および床下空間は乾燥している必要があります。
- 敷設方向: 既存の床板と交差するように敷設することをお勧めします。
- 構造: 合板、OSB、パーティクルボード、チップボード、ウェーハボードなどのその他の下地材は、構造的に堅牢で、メーカーの推奨に従って設置されていること。
- 不適な下地: 枕木構造の下地材やコンクリートの上に直接敷かれた木製下地材の上には設置しないでください。

下地について

■温度・保管管理

- 適正温度: 施工は20~25°Cの温度範囲で行ってください。施工前および施工中は、一定の温度を保つ必要があります。
- 順応: 施工前12時間以内にフローリングの箱が10°C未満または35°Cを超える極端な温度に2時間以上晒されていた場合は、施工を開始する前に、未開封の梱包のまま少なくとも12時間、室温20~25°Cで保管してください。
- 施工後: 施工後は、室温が10°C未満または50°Cを超える温度にさらされないようにしてください。
- 床暖房: 熱源45°C、表面温度35°Cの環境でテスト済みですが、極端な温度変化のある場所（例：寒冷地のコテージで零下の気温が続き、急に強い暖房をつけるような環境）へは施工できません。
- 保管・運搬: 箱は平らな状態で輸送・保管し、端を立てないでください。サネ部分は破損しやすいため、取り扱いや輸送には十分注意してください。

施工前の確認事項

準備

- 古い巾木、壁の土台、家具を部屋から取り外し、作業エリア全体を掃き掃除し、掃除機をかけ、埃やゴミをすべて取り除いてください。
- ドア枠は下部をアンダーカットし、フローリングが挟まれることなく自由に動かせるようにしてください。
- 色や柄を自然に分散させるために、必ず3~4箱ずつ開梱し、施工中に混ぜ合わせてください。
- 施工前に確認してください。(施工後のクレームはお受けできません)
- キッチンキャビネット、ビルトインキャビネット、アイランドキャビネットなど重量のあるものは、直接設置しないでください。まず最初にこれらを設置しその後、周囲に適切な伸縮隙間を設けて床材を施工してください。床材を床下地に釘付けや接着して固定せず、自由に動くようにしてください。

レイアウトとクリアランス

- 壁と柱、階段などの間には必ず5mmの隙間を確保してください。この隙間は、施工後に巾木やモールディングで覆います。
※この隙間にはシリコンを充填しないでください。フローリングの動きを妨げて突き上げの原因になります。
※主な光源の方向に沿って、窓に対して並行にボードを設置するのが理想的です。

継ぎ目の配置

- 板材の継ぎ目と下地の継ぎ目が当たらないようにレイアウトしてください。
- 列の最初または最後の板材は長さ30cm以上としてください。
- 板材は各列、20cm以上の間隔でずらしてください。
- 最終列の板材の幅は5cm以上としてください。
- 下地の伸縮目地の上には設置しないでください。

施工方法

必要な工具

- スペーサー サポートティングボード（直線度の高い合板の切れ端など）
- ゴムハンマー 定規 鉛筆 巻尺 カッターナイフ
- タッピングブロック（サネの上の面を叩ける15～20cm程度の板）
- 枠のこぎり チヨークライン 保護眼鏡 水準器
- ほうきまたは掃除機 0.15mm防湿シート（コンクリート下地の場合）

きれいに仕上げるために

- 最初の3列の施工精度が、全体の仕上がりと強度を決定します。
完全に隙間やズレが無いように、慎重に作業を進めてください。
ズレがあるまま施工すると全てやり直す事になります。

下地材について

- 床に下地材があらかじめ取り付けられていない場合は、音響性能の向上と下地の凹凸吸収のために、下地材の追加をお勧めします。
- 推奨基準は以下の通りです。
 - ・最大厚さ：1mm
 - ・高密度：135 kg/m³超
 - ・高圧縮強度：200kPa以上 (EN16354、ASTMD3575-20、接尾辞D準拠)
 - ・厚さ変化：10%未満 (ASTM D3575-20、接尾辞B準拠)

禁止事項

- 上記より厚い下敷き、密度が低く圧縮強度が不十分な下敷きを使用すると、ロック機構が損傷し、隙間の発生につながります。
- 床に既に下敷きが取り付けられている場合、追加の下敷きを使用すると、ロック機構が損傷し、隙間の発生につながります。

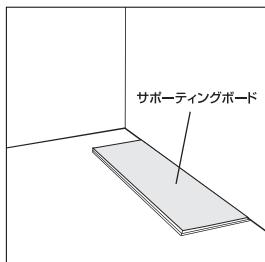
施工手順

作業の内容

1

施工の準備と基礎の設置

- 最初の列がまっすぐになるように、壁際に「サポーティングボード」を置きます。これは、最初の板が動かないように固定し、正確なスタートラインを作ります。

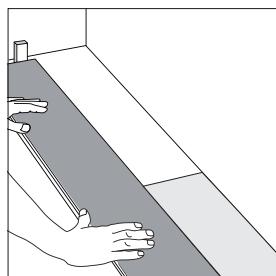


※サポーティングボードは、直線度の高い合板の切れ端などです。あらかじめご用意ください。

2

施工開始

- 部屋の左側から右側へ敷き始めます。最初の板は、溝（メス）がある側が自分の方を向くように置きます。温度や湿度による伸縮に備え、スペーサーを使って壁との間に5mmの隙間（クリアランス）を必ず作ります。

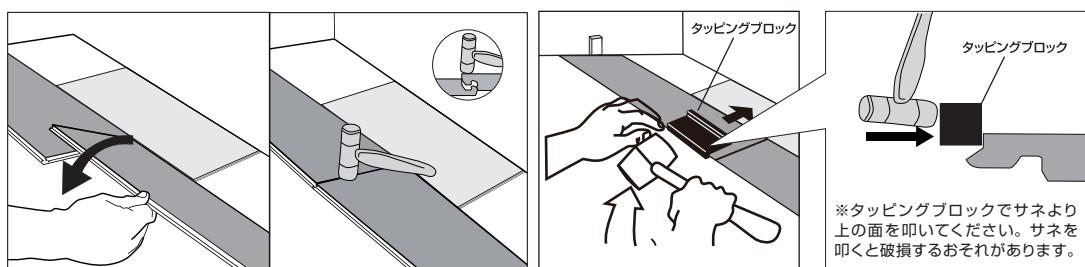


3

2枚目以降の接続（短辺）

- 次の板を前の板の短い辺のジョイントに合わせ、上から落とし込みます。接合部分をゴムハンマーで真上から軽く叩き、表面の高さが揃うまでしっかりとジョイントをロックさせます。

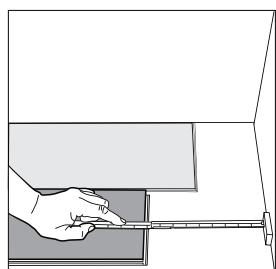
注意点: 板の端ではなく、ジョイントの真上を叩くと、確実にロックされ、板を傷つけません。



4

1列目の最後の板の調整

- 列の最後では、必要な長さを測ります。この際、壁との間に残すべき5mmの隙間を考慮して長さを決めます。



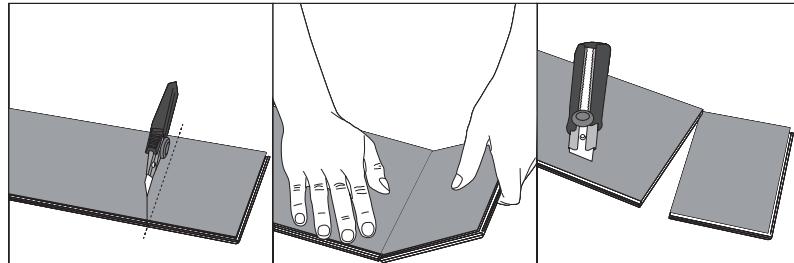
施工手順

作業の内容

5

板の切断方法

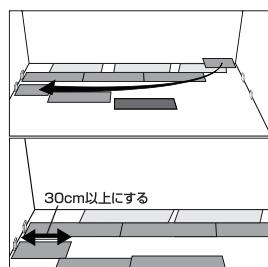
- 切斷する表面に、カッターナイフと定規で数回、深く切り込みを入れます。板の両端を持って下へ力を加えると、切り込みに沿って板がきれいに割れます。



6

2列目以降の 敷設開始

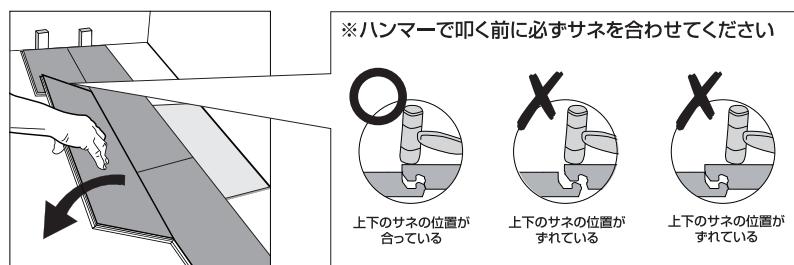
- 前の列を切斷して長さが30cm以上残った板材を、次の列の最初の板として使います。隣り合う列の短い辺の継ぎ目（ジョイント）は、強度と見た目を良くするために、20cm以上ずらして互い違いになるように配置します。



7

短辺のはめ込み

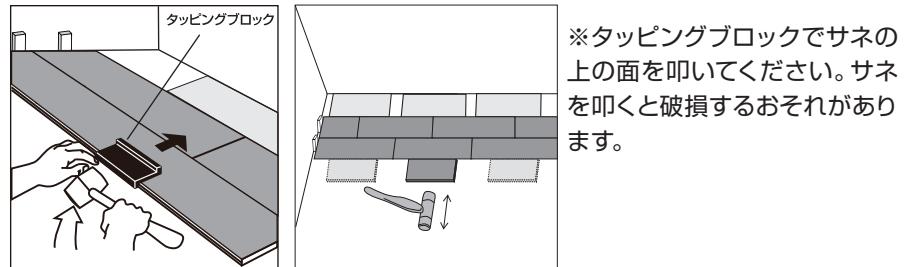
- 新しい板を前の列の板に対し、25~30度の角度に傾けながら持ち上げ、長辺のオス実（サネ）を前の列のメス実（溝）に差し込みます。板を床に倒した後、短辺の継ぎ目部分をゴムハンマーで叩き、短辺のジョイントをロックさせます。



8

長辺の密着

- 長い辺にタッピングブロックを当て、ハンマーで軽く叩きます。これにより、前の列との間に隙間がないように横方向からも力を加え、ジョイントを完全に密着させます。



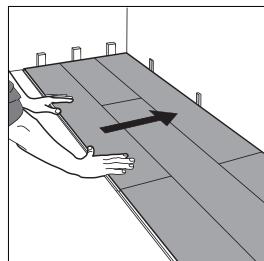
施工手順

作業の内容

9

最初の3列完成後の微調整

- 最初の3列を敷き終えたら、作業開始時に置いたサポートингボードを取り外します。壁との間にスペーサーを挟み、3列全体を壁側に押し付けて、最初の列の位置を固定します。最初の3列の設置後、ひもなどを使って、列がまっすぐになっているか、ゆがみがないかを確認します。

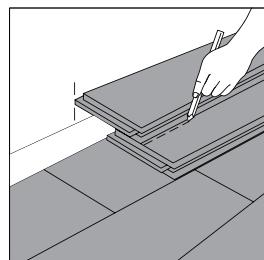


10

最後の列の施工

- 最後に敷いた列の上に、もう1枚の板を重ねて置きます。この重ねた板の舌状面(サネ側)を壁に接触させます。壁に接触させた板の端に沿って、下の板(敷く板)に線を引き、切断する幅を印つけます。印に沿って板を切り、壁との間に滑り込ませて差し込みます。最後に、壁際に挟んでいた全てのスペーサーを取り外します。

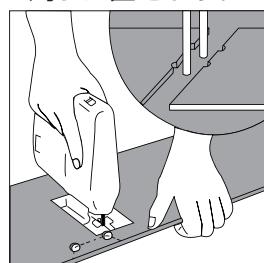
注意点: 最後の列の幅は、安定のため50mm以上必要です。



11

配管部分の処理

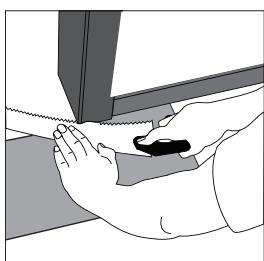
- 配管の直径よりも12mm大きい穴を開けます。穴の中心を通るように板材をのこぎりで切り落とし、2つに分割します。まず穴の開いた大きい方の板を敷き、その後、切り離した小さい方の板を配管の周りに置きます。



12

ドアモールディングへの対応

- ドアモールディングの隣に板材(装飾面を下にして)を置き、モールディングが板材の厚み分だけ隠れるように、のこぎりで切れます。切断したモールディングの下に、床板を滑り込ませて納めます。



お手入れ、メンテナンス

- 製品を直射日光から保護するために、カーテン、窓用トリートメント、または窓のUVカットフィルムなど、適切な窓カバーを使用してください。直射日光に長時間さらされると、変色する可能性があります。
- 毎日、柔らかい毛のアタッチメントを使用して掃き掃除または掃除機をかけてください。
- ビーターバー付きの掃除機は使用しないでください。
- 表面を磨いたり、やすりで磨いたりしないでください。
- こぼれた液体や過剰な液体はすぐに拭き取ってください。
- 必要に応じてモップで湿らせ、ビニール材に推奨されている中性洗剤を使用してください。
- 本製品には、家庭用スチームモップおよびスプレーモップの使用は可能です。適切な柔らかいパッドを使用し、最低出力で使用してください。また、スチームモップを長時間（30秒以上）一箇所に当てないでください。正しい使用方法については、モップメーカーの取扱説明書を参照してください。
- 家具の下にはフェルト製のプロテクターなど、適切な床保護具を使用してください。キャスター付きのオフィスチェアやその他の移動式家具には、直径5cm以上の幅広キャスターを取り付けてください。
- 屋外の出入り口に歩行用マットを敷き、家の中に持ち込まれる土の量を減らしてください。ラテックスやゴム製の裏地が付いたマットは、変色の原因となる可能性があるため、使用しないでください。
- 床のメンテナンスに研磨剤入りの洗剤、漂白剤、ワックスを使用しないでください。
- 頑固な汚れには、臭いの少ないミネラルスピリットまたは変性アルコールを清潔な布に含ませて拭き取ってください。化学薬品を床に直接かけないでください。
- 重い物を床の上で引きずったり、滑らせたりしないでください。
- このフローリングは車椅子が必要なご家庭にも使用できますが、車椅子での移動には、あらかじめ取り付けられた裏地を除き、厚さ5mm以上の製品のみ使用できます。スロープには使用しないでください。
- 電動車椅子は使用しないでください。